

コロラド派遣事業を経験して

吉田中学校

田村 勇輝

今夏、コロラドでホームステイをしたことは、私にとって貴重な経験となりました。

成田からコロラド州都デンバーへ飛行中、CA が英語で話しかけてきたので、もうすでに派遣事業は始まっているのだという実感が湧きました。

デンバー空港に到着しバスで移動しましたが、ここがアメリカかと疑うほど何もない平地がずっと続いていました。しかし、30 分ほど経つとアメリカらしい大きな家がたくさん見えてきました。

アメリカに着いてまず日本と違うと思ったことは3つあります。1つ目は右車線ということです。かなり違和感がありました。2つ目は気候です。日本よりも乾燥していて過ごしやすかったです。3つ目は国土が広いためなのか、道路が日本ほど舗装されておらず車酔いしそうでした。

到着したその日がホストファミリーとの対面日です。ホストファミリーの家族構成は、両親に子供3人、そして2匹の犬でした。ホストマザーは長時間の移動で疲れていることを察して、ゆっくりさせてくれました。英語が上手に話せるか心配でしたが、ホストマザーもファミリーもゆっくり話し、ジェスチャーつきで伝えてくれ、アメリカの人の優しさを感じました。そして私も、完璧な英語で伝えなくていい、懸命に伝えようとすれば伝わるということを身をもって学びました。

日本からのおみやげは一輪挿しの花瓶や金地の写真立てなどを持って行って喜ばれましたが、長男のコナーには『消せる蛍光ペン』がうけていました。長女のオードリーは和三盆の干菓子の美しさに驚いていました。末っ子フィオーナは1歳の赤ちゃんで、よくなついてくれて可愛かったです。

またアメリカの人はペットをととても愛し、多くの家族はペットを飼っていると教えてくれました。滞在中には私たちが日本語を教える機会もあり、日本語の発音がかなり難しかったようです。

ホストファミリーとの自由行動の日にはボウリングや湖、サッカー観戦などに連れてってもらいました。そうしたことを通して、ホストファミリーとの絆を深められ、以前より英語でコミュニケーションを上手にとることができるようになりました。

一方でホストファミリー同士の会話は、早すぎて聞き取れませんでした。自分の实力はこんなものかとがっかりしましたが、今後英語にたくさん触れて、いつかネイティブ同士の会話も聞き取れるようになりたいです。

また、アメリカらしい食事もさせてくれました。特に分厚いステーキはコロラドに行く前から楽しみにしていて、想像よりあっさりしていました。ホストマザーからアメリカでのテーブルマナーも教えてもらいました。

そしてホームステイ最終日。ホストファミリーと過ごした一生の思い出を胸に、感謝の気持ちを精一杯伝えて別れました。

その後2日かけてコロラドの観光地を巡った後、帰国の途につきました。家に着き、ホストファミリーからのプレゼントを見ると手作りのキャンドルや手紙が入っていました。今もホストファミリーとのメールのやりとりを続けています。もし彼らが日本を訪れることがあったら、今度は私が日本文化を紹介して日本のことを好きになってほしいです。

今回の派遣事業でホストファミリーや団員と深い人間関係を築けたこと、アメリカの生活や習慣、文化を学べたこと全てが自分にとっての財産となりました。それができたのは両親、ホストファミリーはもちろん市役所の方々や先生のおかげです。自分を派遣団の一員としてコロラドに行かせて良かったと思ってもらえるよう、英語をはじめ勉強やこれからの生活に懸命に取り組みたいです。